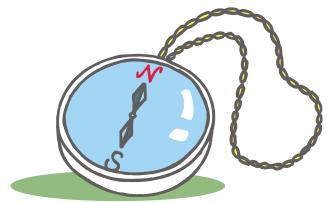


羅針盤



第 23 号 令和4年(2022年)11月7日(月)

◆ 助言を素直に聞き入れる謙虚さ

今から22年も前の出来事となりましたが、2000年にオーストラリアのシドニーで行われたオリンピックの女子マラソンで金メダルを獲得した高橋尚子選手を生徒の皆さんもよく知っているでしょう。彼女を育てあげたのが、陸上競技の名指導者であった小出義雄（こいでよしお）監督です。小出監督の話では、高橋選手が金メダルを取ることができた最大の要因は、高橋選手が何よりも「素直で、明るく、嫉妬しない子」であったからだと言います。高橋選手は、他の選手が残した素晴らしい成績を、自分のことのように心から喜んでいたそうです。高橋選手の先輩に鈴木博美という選手がいました。鈴木選手も1997年にアテネで開催された世界陸上では女子マラソンで金メダルを取った実力のある選手です。実際に、鈴木選手の方が高橋選手よりも才能はあったと小出監督は言っています。しかしながら、小出監督が鈴木選手に、その後、何度もマラソンを続けてやるようにと話をしたところ、「嫌です。あんな恐ろしく長い距離は二度と走ることはできません。私は一万メートルでいいです。」と言って、小出監督からの誘いを断ったそうです。それから数年後、鈴木選手はバルセロナオリンピックやアトランタオリンピックで活躍してメダルを獲得した有森選手の活躍に刺激を受けてようやくマラソンに転向しますが、鈴木選手がマラソンに転向すると言い出すまでに10年かかったそうです。もし、小出監督が最初にマラソンを勧めたときに、鈴木選手が素直に「はい。頑張ってみます。」と答えていれば、たぶんオリンピックで金メダルを2つは取っていただろうと小出監督は話されていたそうです。シドニーオリンピックの金メダルも高橋選手ではなく、鈴木選手が取っていただろうと小出監督は思っていたというエピソードもあります。二人の違いは、小出監督からの勧めを素直に聞き入れ、他の選手の頑張りを素直に喜び、自分自身の発奮材料とすることができたかどうかだということのようです。チャンスは全ての選手に同じように訪れるかもしれません、それをつかむことができるかどうかは、「素直に聞き入れる謙虚さを持ち合わせていること」が何よりも大事なことであると教えてくれているのではないかと思います。



◆ 収穫の秋、実りの秋

秋は、「収穫の秋」あるいは「実りの秋」とも言われ、野菜や果物がとても美味しい季節です。収穫にいたるまでには、野菜づくりも簡単なことではなく、畑を耕し、種を蒔き、雑草を抜いたり、害虫を駆除したり、あるいは、肥料を与えたり、当然のことながら、毎日栄養となる水を与えることが大切なことであり、何といっても粘り強い根気と多くの時間を必要とします。このような農作業は、作物を育てるうえでは、とても基本的なことであり、手間を省いてしまったり、少しでもおろそかにしていると収穫の喜びを得ることができなくなってしまいます。生徒の皆さんにとっては、日頃の学習活動で同じことが言えるのではないかでしょうか。結果を得るためにには、近道は決してないということ。つまり、「学問には王道なし。」ということだと思います。

